

テニスの男子ダブルスにおけるゲーム分析―トッププロと一般競技者の比較―

The game analysis of men's doubles of tennis ―The comparison of professional player

1K04B192

藤島 謙太郎

指導教員

主査 関一誠先生

副査 坂井利郎先生

1. 緒言

テニスの男子ダブルスの面白さは、シングルスと違い、4人の選手が1つのコートでプレーをする点にある。そのため、シングルスに比べてダブルスは、スピーディーで戦術豊富な戦いが行われるといえる。私は自分自身がプレーしている影響もあり、男子ダブルスのデータや戦術について非常に興味を持つようになっていった。そして、そのデータを自分自身の競技力向上に役立てようという目的から、男子ダブルスのゲーム分析を行うことにした。分析は【トッププロの男子ダブルス】と【一般競技者の男子ダブルス】に分けて行い、そのデータを基に、特徴を捉えるだけでなく、有効な戦術について、両者の比較を交えながら考える。

2. トッププロ選手の男子ダブルス

<方法>

今回、プロの中でも最上層にこだわって分析を行った。そのため、分析の対象は、プロの世界でもトップにあたる、ATPツアー、デビスカップ、グランドスラム大会の試合に限定した。それらの試合の中から5試合のテレビ放送のビデオを用いてデータを抽出した。

<結果及び考察>

プロの男子ダブルスの試合はかなり展開が速く、早い段階でポイントが決まっている。また、サービスのブレークがほとんど発生しない。そのため、1stサービスの確率を上げて、サービスキープを確実に行うことが、重要なのだ。そのために、サービスのコースも、「安全性」のセンター、「ハイリスクハイリターン」のワイド、「他のコースを生かす」ワイド

という特長を理解した上で、場面に応じて使い分ける必要がある。

また、1フォーメーションや2バックフォーメーションといった変則フォーメーションを時折使うということで、ポイントをとりやすくなるといえるので、サービスキープ、サービスブレークのために有用な戦術だといえる。サービスのリターンでポイントが決まるのがほとんどであるため、トッププロにおいてはサービスとリターンのスキルを高めていくことが勝ちへの近道といえる。

3. 一般競技者の男子ダブルス

<方法>

一般競技者の男子ダブルスについて分析を行うため、私はテニススクールのコーチングスタッフや、同好会の大会において上位進出するような選手など、一般競技者といえる人を被験者として、実験を行った。1セットマッチで5試合を、データを抽出する対象の試合としてビデオカメラで収録した後、データを抽出した。

<結果及び考察>

一般競技者の試合はトッププロに比べてラリーが長く続くということが判明した。それに加え、サービスブレークも多く発生している。一般競技者の場合は、サービスキープが確実ではないといえる。そのため、一般競技者はトッププロ以上に1stサービスの確率に注意を払わなければならない。また、2ndサービスでも「入れにくい」サービスではなく攻撃していく意識を忘れてはならない。サービスのコースについては、センターを中心に組み立てた上で、適度にコースを散らすということが必要

だといえる。それに加えて、相手の苦手コースに打つのも正しい選択である。また、2バックフォメーションはポイントに直接結びつくわけではないが、リターン返球率が上がるという効果がみられた。また、Iフォメーションは一般競技者の試合では見られなかったが、サーブスキップを助けるという意味でも用いるべきであろう。一般競技者の男子ダブルスは、ラリーを中心とした展開が主体となるため、突き球などラリーの中でリスクが低くて攻撃できるショットを身につけることが肝要である。

4. 結論

男子ダブルスにおいて、トッププロと一般競技者には、それぞれ特徴と違いがあることが判明した。前者では、サーブでのポイントが多く、ラリーが続かない。逆に後者では、サーブリターンが高確率で返るので、ラリーが長く続く。それゆえに必要なショット、戦術も違いがあるといえる。

テニスの技術の向上のためには、一般的な戦術のセオリーだけでなく、データに基づいた戦術を身につけていくことも必要であろう。